

都市農業の地場流通における中間支援機能について

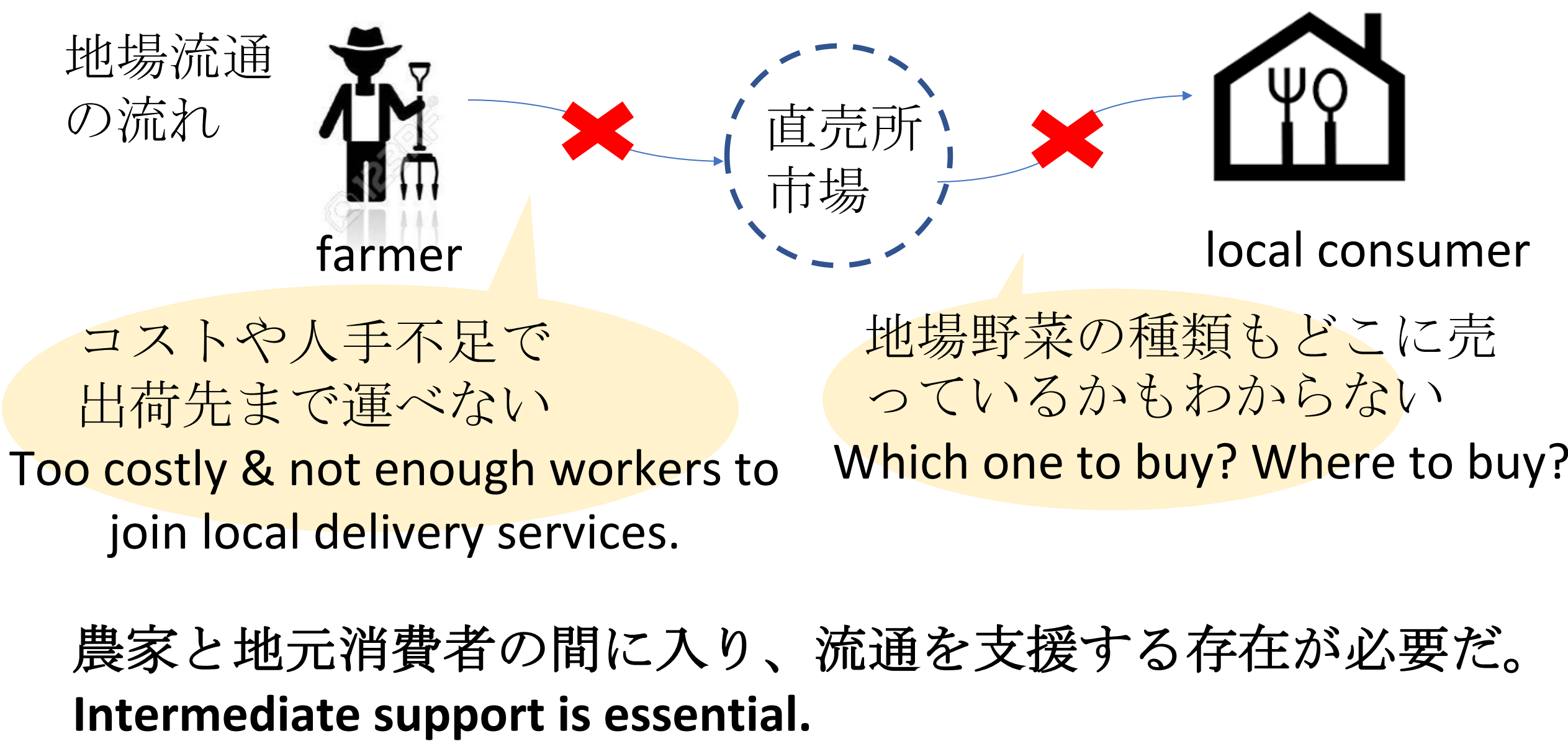
1 背景 Background

a. 地産地消機能への期待

Local production for local consumption(地産地消)
=Supplying fresh produce to urban residents

東京の農業（2015）によると、消費者はもっと地場野菜を購入したいと思っている。
According to the survey in Tokyo (2015), consumers want to buy more local vegetables.

b. 地場流通の中間支援の必要性



c. 考えられる中間支援の種類

1 地域内連携 Create a connection

農家と消費者が集まる場を作ったり、農家と消費者がコラボした事業を行う。

2 コストや人手不足を補填 Make up for costs and manpower

野菜の配達を担ったり、マルシェや朝市を開催。

3 知名度を上げる Raise name recognition

地場野菜を紹介する出版物を発行したり、地場野菜をブランディングする。

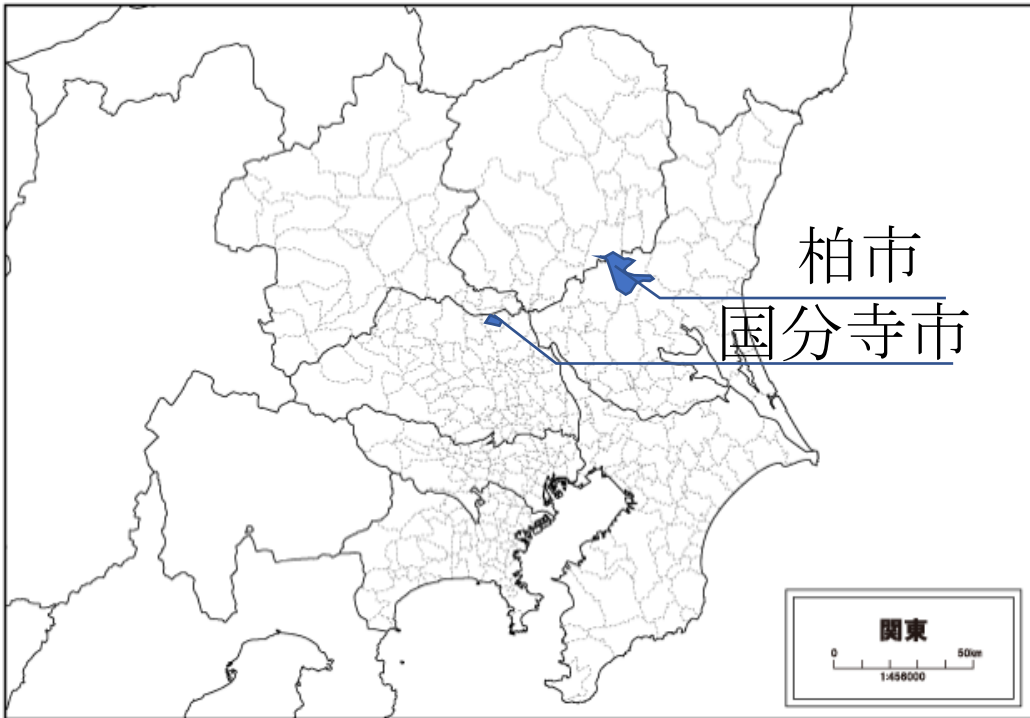
2 目的 purpose

スムーズな地産地消を可能にしている、中間支援の担い手及び担い手間の関係性を明らかにする。

To identify key intermediate actors and their relationships that support local production for local consumption by focusing on financial and human resource support.

3 方法 Methodology

対象地 千葉県柏市
東京都国分寺市



	面積	人口	人口密度	農地割合
国分寺	1146ha	122700	107人/ha	11.8%
柏	11474ha	414000	36.1人/ha	22.4%

農林業センサス(2017)より

柏市では約4割、国分寺では約7割の販売農家が、市場外出荷をメインにしている。
インタビュー、文献調査で中間支援がどのように変遷してきたかのデータを集めた。中間支援のターニングポイントを抽出し、中間組織、中間組織間の関係を図に表した。

Data about the transition of the intermediate support were collected by interview and literature.Characteristic intermediate organizations and their relationships on three point were illustrated.

4 結果 Preliminary Results

柏市

2011 中間支援体制の発足

Establishment of intermediate support system
アグリコミュニケーション柏委員会
・東日本大震災の土壌汚染
・柏市農政課を中心に地場野菜販促のための協議会
・ Soil contamination caused by the Great East Japan Earthquake
・ Council for promotion of local vegetables
食メッセ（商談会）の実施
各種リーフレットの作成
農家ツアーの実施

2015 かしにわ制度の調査事業

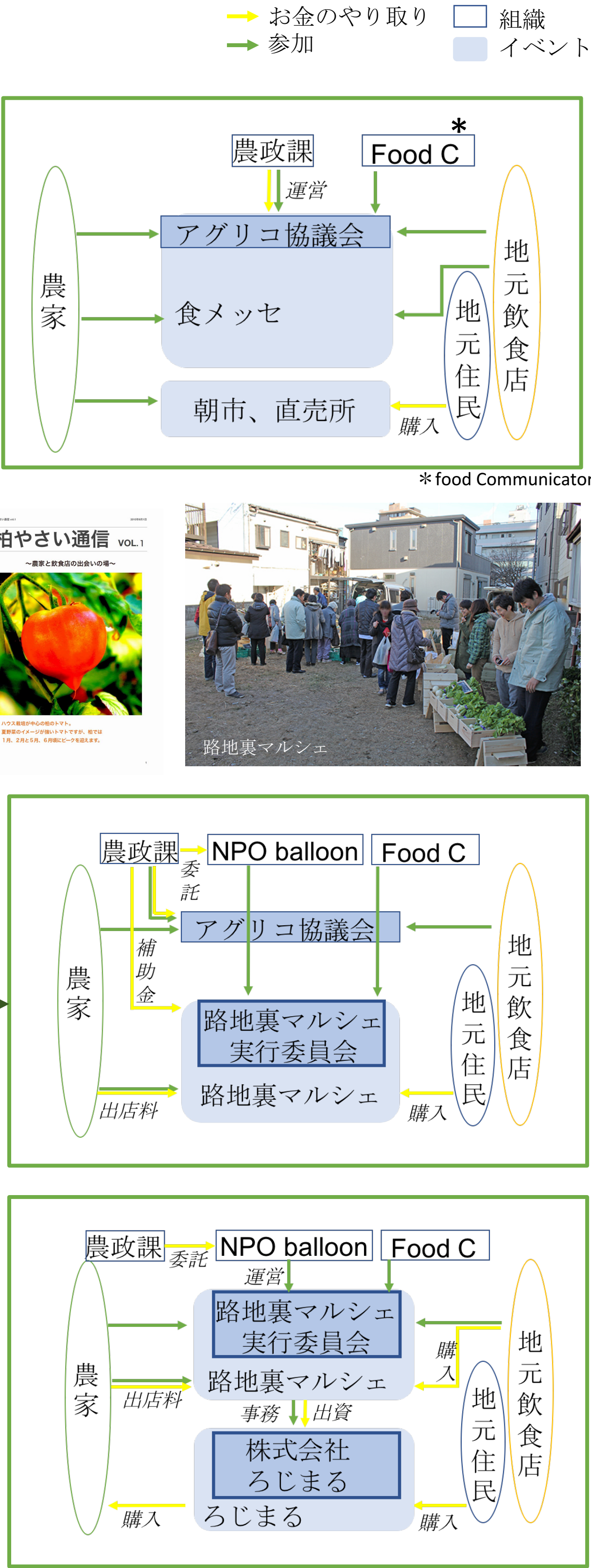
Survey for “Kashiniwa” system
・かしにわの今後の利用法の模索
・柏市農政課が、NPO balloonに業務委託
・空き地の活用→駅前の野菜市
・ Future utilization of Kashiniwa system
・ Agricultural administration office outsourced to NPO (balloon)
・ Utilization of vacant land → Framers’ market

2016 行政に委託されたNPOによる支援

Support of NPO which is outsourcing
路地裏マルシェ実行委員会の設立
Establishment of executive committee
・行政の補助金を受け、NPOが運営
飲食店ニーズがある柏駅周辺のマルシェ

2017 NPOによる支援の拡大

Expansion of NPO support
株式会社ろじまる発足
Establishment of Rujimaru Co.,Ltd.
・路地裏マルシェ実行委員会の出資による
柏駅前常設店舗で八百屋ろじまるの運営



国分寺市

2011 農家と飲食店、民間有志の繋がり蓄積

Accumulation of connections between farmers, restaurants and private volunteers
・地域通貨への農業の参入
・ぶんぶんウォークの実施

2015 総合的な中間支援プロジェクトの発足

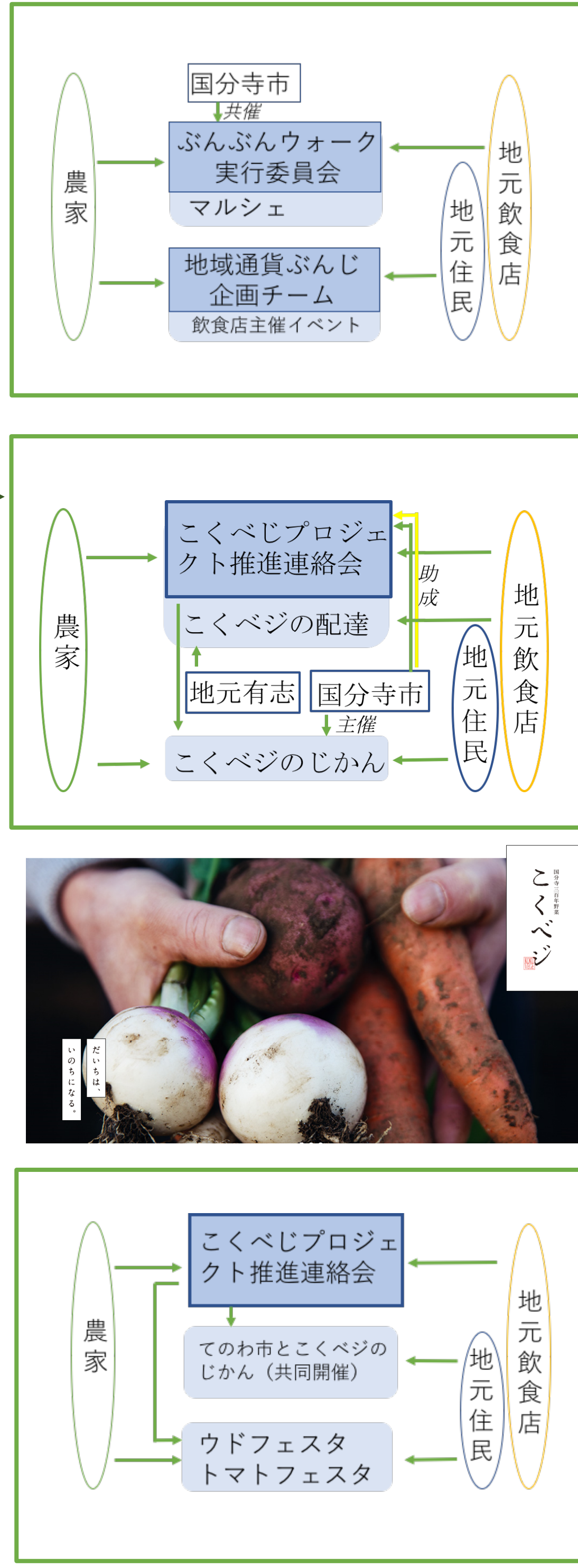
Establishment of comprehensive intermediate support project
こくベジプロジェクト推進連絡会の発足
Establishment of coordination committee for promotion of Kokuvege project
・国からの補助金がきっかけ
地場野菜を「こくベジ」と名付けブランディング
各種広報紙の発行
飲食店のこくベジを使ったメニューの開発

2016 中間支援プロジェクトの展開

Development of intermediate support project
マルシェイベント「こくベジのじかん」実施
民間有志による飲食店へのこくベジの配達

2019 行政の先導的役割の縮小

Reduction of government's role
・補助金の縮小、終了
・ Reduction and end of subsidy
こくベジプロジェクトの連携先の拡大
店舗PRイベントの実施
他の組織とのイベントの共同開催



5 考察 Discussion

柏市

行政の委託で事業を始めた民間団体が、行政から独立後、事業を広げることで中間支援が拡大している。組織間でお金が上手く回っていることが成功要因だが、これは同じ人が複数の立場から参加することで可能になっている。

国分寺市

地域を活性化したいという思いを持った農家、飲食店、地元有志が個人ベースで発信している。同時にこくベジプロジェクトを中心として、次々と企画運営されるイベントに関わることで、どんどん人の繋がりが広がっている。この人の繋がりが、補助金終了後も中間支援が継続している要因である。

In Kashiwa city, intermediate supports have been expanded along with the expansion of business of NPO since it became independent of the government's support. The success factor is that the money is circulating among the multiple organizations the same person belongs to.

In Kokubunji city, Farmers, restaurants, and local volunteers who want to revitalize the city are acting on an individual basis. At the same time, people are increasingly connected by being involved in events about Kokuvege planned and operated one after another.

This person's connection is the reason why the intermediate support continues even after the subsidy ended.

References

佐藤滋ら (2011),「まちづくり市民事業」,学芸出版社
鈴木亮平(2019),「かしにわからろじまるへ」,「地域開発」,vol628,p28-p32
中村克之(2019),「農の見える大都市東京生活」,「地域開発」,vol628,p12-p17
高見澤邦郎ら(1994),まちづくり中間セクターの実態と非営利まちづくり組織への展望,住宅総合研究財団NO.21
葛谷栄一 (2009),「都市農業を守る一国土で在位と日本農業」,社会法人家の光協会